

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第6号

2010年11月10日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内
TEL 043-2222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

国鉄1047名解雇撤回! たたかう労働運動の再生を
11・7集会に5900人



「国鉄1047名解雇撤回・派遣法撤廃! 大失業と戦争に突き進む菅政権に怒りの声を!」のスローガンで闘われた11・7全国労働者集会は、日比谷野首を埋め尽くす5900人の結集で大成功しました。国鉄闘争全国運動の呼びかけ人の発言を中心に報告します。

伊藤晃(日本近代史研究者)

中曽根康弘は労働運動解体のあなたに戦後民主主義清算と改憲のコースを見た。国鉄1047名解雇撤回闘争は、戦後民主主義をゆるがす政府に對抗し続けるものだった。国鉄闘争全国運動は、この立場を解体する「4・9政治和解」に抗して始められたものだ。

労働者たちはいま共通した不安や怒りを感じている。今日隣で働く労働者に起きていること

は、明日は我が身の現実となるのだ。この状況に対応する上で、日本に現存する主流の労働運動はいちじるしく無力である。だが、これらへの批判は、私たちが現実の事態に対抗しうる新しい無数の運動をつくりだすことでは有効にならない。全国運動をそのための場にした。

金元重(韓国労働運動史研究者)

韓国の代表的な非正規職労働者の解雇撤回闘争であるキリョン電子の闘争において、10月31日、10人の組合員が復職を勝ちとることができた。2005年から実に6年、1895日にわたる長く苦しい闘争の大きな成果です。

彼女たちは、他の会社に就職を斡旋するという「就業斡旋案」が提示されても、「自分たちは派遣労働者から正規職への転換を求めて闘ってきたのだから最後まで闘う」と

泣きながら決めて闘ってきました。今年に入ってから実務交渉もけつして順調ではなく3回目の断食闘争や会社が差し向けた工事用のショベルカーを占拠しての座り込みなど激しい闘争の末に勝ちとった勝利でした。

私たちが国鉄闘争全国運動としても彼女たちの不屈の運動に学んでいきたいと思

今日、国家・資本は、労働者を生きさせるどころか放棄してしまふ。2009年平均で非正規労働者は1721万人で、年収200万円以下は、996万人にも及んでいます。完全失業者は336万人。15歳から24歳までの若者の失業率は14・2%にも上ります。

大野義文(元安芸労働基準監督署長)

こうした、国家・資本の横暴を許すわけにはいきません。坂本龍馬は、「今一度日本をせんたく致し候」と言いましたが、

労働者の生きる道示した

高英男(関西地区生コン支部副委員長)



関西生コン産業における4カ月に及ぶストライキは中小企業とそこで働く労働者の攻勢によって、ついに勝利的に終わろうとしている!

今回のストライキの大きな特徴点は、大阪生コン関連企業250社以上に影響を及ぼしたストライキを主導した連帯労組

関西地区生コン支部を始めとする労働組合共闘組織である生コン産業政策協議会の組織率は3割に満たないということです。

今こそ、私たち(闘う労働者の全国(いや、全世界)ネットワーク)でもって、この国を(革命(新しく変える・あらためる)しよう)ではありませんか。

宇都宮理(愛媛県職員労働組合委員長)

日本の公務員労働者は、すでに民営化・解雇攻撃のまっただ中にいます。現に、社会保険庁は今年1月に解体され、525人の仲間が分限解雇されました。さらに子ども・子育て新

むことになったのは、労働組合の掲げた要求が、生コン業界の多くの中小企業の生き残り

けた要求とそこで働く労働者の要求と一致共に闘えたことにある。まさに産別運動が示す優位性を表しているのである。

今回の関西生コン産業における闘いは、日本の産業を支える90%を超える中小企業・協同組合と、日本の労働運動に絶望している中小企業で働く多くの労働者の闘いによって大きな成果を勝ち取り、中小企業と労働者の生きる道を指し示す闘いになった。

闘いはこれからだ。今回の闘いによる成果は、必ずしも安定的に永久的な成果としてあるわけではない。

08年リーマンブラザーズの破綻で始まった金融恐慌は、世界

STEMの名の下に保育職場の全面民営化が目論まれています。しかし、これらの攻撃によって、この場に結集している自治体労働者は、ますます勢いを増して当局の攻撃を跳ね返しています。そして、新たな国鉄闘争をもって果敢に職場オルグを展開し、仲間を増やしています。そして私たちが望むものは、戦争を許さない、国境を超えてますます広がる労働者の団結です。私たちが団結して戦争を拒否すれば、必ず戦争を止められます。ともに闘いましょう。

(裏面に続きます)

具体的には、大きな財源をはき出すことになるゼネコン・セメントメーカーは、形を変えて、破壊的な生コンの安値と賃金抑制を強要してくることは明白である。

今回勝ち取った成果を大手ゼネコンの反撃によって奪われたためにも、全ての中小零細企業が協同組合に大同団結し、労働者との共同闘争が必要不可欠であることが明らかになった。

関西生コン産業における産別運動の闘いと成果は、生コン産業だから取り組めた闘いではない。今回の闘いは、日本の全地域・全産業において普遍的に取り組める闘いである。

次なる闘いを準備し、さらに闘いを拡大させることが日本労働運動の再生を可能とすると確信する。

(表面からの続き)
手嶋浩一(元国労九州本部書記長)

国鉄が分割・民営化されて25年を迎えようとしています。国鉄の分割・民営化は今日に至っても間違いであることを全員で確認し合おう。

組合員を24年間も苦難の生活に追い込んだのは誰か。勿論、当時の中曽根自民党政政府であることに違いはありません。しかし私は、これに真正面から闘おうとする意志がなく、修善寺大

今回の和解では、不本意ながら調印した組合員が大半であったと思います。再雇用を望む人たちだけを孤立させることのないよう引き続き闘いを継続し、支援して頂くことを期待します。

山崎吉男(福岡県弁護士会)

私は、国鉄1047名の解雇撤回を求めて今も闘い続けている鉄建公団と鉄建機構に対する裁判の代理人をしています。石崎さんや羽廣さん達が国鉄分割・民営化に反対して今も闘い続けていることに心から敬意を表します。

先日、日経の社説の中に「企業の成長が国民の繁栄に自動的につながらない時代の到来に政治家は対応を急ぐべきである」との記事がありました。「ふざけるな」と言いたい。今まで、そんな良い時代があったか。企業は、儲ければおこぼれを少し渡すだけで経営状態が悪くなれば直ちに合理化という名の下のリストラをして労働者や下請けにしわ寄せするではないか。

この様な社会、政治、利潤追求至上主義の企業に対して怒りをぶつけ、団結し行動して闘いましょう。



検修業務の全面外注化阻止 動労千葉は12月スト構え闘う

田中康宏(動労千葉委員長)

国鉄闘争の火を消してはならない。私たちはこの6月、1047名解雇撤回に向けて新たな全国運動をスタートさせました。

日本における新自由主義攻撃は、国鉄分割・民営化によって国鉄労働運動を叩きつぶすことから始まりました。動労千葉は、1985年、86年、90年、首をかくて3波のストライキに立ち上がりました。この闘いを理由に、40名の仲間が解雇され、100名以上が配転されました。動労千葉の小さな闘いで



この闘いは今、全国に、全世界に根を広げようとしています。本日をもって動労千葉も新たな闘いに立ち上がります。我々は今、外注化阻止に向けた闘いの渦中にあります。鉄道業務を数百の子会社・孫会社にハラバ

労働者の未来かけ解雇撤回闘く

動労千葉争議団・国労闘争団の発言

中村仁(動労千葉争議団)

「国家的不当労働行為を容認する」「会社は労働者を勝手に解雇できる」「国家・企業が不当労働行為や解雇をやっても責任はない」。これが「4・9政治和解」です。

私が強調したいのは1047名解雇撤回闘争は全労働者の問題だということです。「4・9政治和解」を認めれば、首切り自由の世の中になり、非正規化に歯止めがなくなるといって

ラにして、労働者ごと丸投げ外注化する攻撃です。雇用と安全が根本から解体されようとしています。

動労千葉は、今秋から来春に向けストライキを構え闘いに立ち上がります。外注化阻止闘争は解雇撤回闘争と一体の闘いで



方針を与え、労働組合を甦らせるのが我々の任務です。この時代に通用する新たな労働運動を、一から再組織することをめざして国鉄闘争全国運動は生まれました。今日の集会を新たな出発点として全国の仲間たちの総決起をお願いします。

非正規雇用撤廃! 労働者の権利拡大かちどく

中村吉政(全国金属機械港合同委員長)

11月集会を呼びかける契機となったのは国鉄1047名問題に関する東京地裁の98年5・28反動判決に対する闘いでした。国家総ぐるみの不当労働行為を開き直り、労組法・労働委員会制度を否定するこの判決に

JRでは非正規労働者11名を変えた臨時雇用労働者が蔓延しています。「非正規雇用を撤廃せよ」の声をあげ、権利拡大につながる組織化を目指し、JR資本を追い詰めなければなりません。国労闘争団、動労千葉争議団、臨時職員の和田弘子さん



今資本は、総評運動解体の総仕上げとして自治労など労働組合への攻撃を強めています。かした汗や涙が報われる争議の解決に向けて共に闘い抜こう。

成田昭雄(国労旭川闘争団)

私は北海道生まれ、北海道育ちの生粋の道産子です。国鉄分割・民営化は、鉄道労働者の首を切っただけではあり

羽廣 憲(国労小倉闘争団)

私たちは無理、難題や特別なことを言っているわけではなく、不当な解雇だから解雇撤回を闘い続けているだけです。23年間も闘い続けて来られたのは、JR職場で資本と必死に闘

い抜いている仲間との団結と、国鉄闘争が階級闘争だと理解している労働者が「負けるな、頑張れ」と支えてくれたからこそだと思います。国鉄分割・民営化は絶対に認められないのです。今、JRは分割・民営化25年問題であるがきにあげています。尼崎事故に示されるように安全も守れ

解雇撤回を求めて闘う鉄道運輸機構訴訟

12・2東京高裁再開第2回控訴審闘争へ
12月2日(木) 11時(10時30分傍聴券抽選)
場所 東京高裁第14民事部101号大法院
原告 小玉忠憲さん(国労秋田闘争団)
被告(独) 鉄道運輸機構